

第179回 番組審議会

1. 日 時 平成21年2月4日(水) 12:00~
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲東の間」
3. 委 員 委員総数 13名
出席委員数 11名(欠席委員数 2名)

出席委員(敬称略)

谷口 誠(委員長)
椎井 一意(副委員長)
以下50音順
久慈 浩介
斎藤 雅博
東海林 千秋
菅原 正二
中川 真
中原 祥皓
村上 幸子
八木橋 伸之
吉田 浩次

会社側出席者(7名)

内海 幸司(代表取締役社長)
佐藤 滋樹(常務取締役)
小原 忍(常務取締役)
藤澤 利憲(常務取締役)
前田 秀男(取締役技術局長)
一戸 俊行(報道局長)
川村 敦美(報道部)

事務局 村田 重昭

4. 議 題

MITスーパーニュースSP2008

『カメラが追ったこの1年』

平成20年12月30日(火) 17:00～:18:00 放送

5. 議 事 概 要

今回は、MITスーパーニュースSP2008『カメラが追ったこの1年』について審議した。

各委員からは「県民の声が紹介されていて良かった。」、「報道部員のコメントに臨場感があった。」、「映像のセレクトが良かった。」などの意見が出た。

また「暗い話題が多かったので、明るい話題も取り上げて欲しかった」、「ニュースに対する課題や問題の提起をして欲しかった。」との意見があった。

6. 議 事

事 務 局

ただいまより第179回番組審議会を開催いたします。

事務局を務めておりました後藤が1月20日付で異動となり、私、村田が番組審議会を担当させていただくことになりました。皆様、よろしくお願いいたします。

それでは、議題に入らせていただきます。今回の議題は昨年12月30日に放送されました、“MITスーパーニュースSP2008『カメラが追ったこの1年』”です。本日は、プロデューサーの一戸報道局長、ディレクターの報道部・川村敦美が出席しております。

それでは、谷口委員長、よろしくお願いいたします。

谷口委員長

それでは、一戸さん、川村さんから、番組の背景や感想などについて説明をお願いいたします。

一戸プロデューサー

報道部の一戸です。よろしくお願いいたします。

“MITスーパーニュースSP2008『カメラが追ったこの1年』”は、この1年間に起きた出来事を振り返る番組です。2008年は、報道部にとっても岩手にとっても激動の1

年でした。2度に渡る大地震、川井村の少女殺害事件、平泉の世界遺産登録、宝くじ殺人事件など、本当にいろいろあった1年でした。

めんこいテレビ発の全国ニュースは、例年、月平均4本程度なのですが、去年は月平均15本から16本ということで、2日に1回は岩手のニュースが全国に発信されていた、という計算になります。めんこいテレビの報道部にとっても大変忙しい年でした。

今回の番組は、入社2年目で県警担当の川村記者に担当してもらいました。県警担当ということで、夜討ち朝駆けの厳しい取材を続ける中、宝くじ殺人事件では、遺体搜索の現場をスクープするという実績を残しています。番組制作は今回が初めての経験となりますが、いい意味で淡々と内容をまとめていたと思います。

反省すべき点はいろいろありますが、去年は暗いニュースに終始しましたので、来年は「心が温まるニュース」「元気になるようなニュース」などを、一年を通して意識的に発信していきたいと考えています。

今日は皆さんにいろいろな意見を伺い、番組作りに活かしていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

谷口委員長

どうもありがとうございました。川村さん、どうぞ。

川村ディレクター

報道部で記者をしている川村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど紹介がありました通り、私は県警担当で事件・事故の現場にすることが多く、二度の大きな地震を始め、番組でご紹介した事件の現場には必ずおりました。番組では事件の羅列にならないように、県民がその事件・事故をどう感じたか、裏側ではどのようなことがあったかという点を意識し、県民の声や現場の音を生かしながら番組を制作しました。

また、めんこいテレビの番組のひとつであるからには、恥ずかしいものにしたくない、という思いもありました。

実際に制作にとりかかってみると、20日間という制作日数だったのですが、本当にあっという間でした。出来上がってみるといろいろと反省点も多く、もっとこうすれば良かった、あーすれば、という悔いも残りました。自分なりにこうしたいというわがままを、制作に関わったスタッフに聞いていただき、なんとか番組を完成させることができました。

報道部の経験がまだ一年半しかなく、この番組に関わるまでは、5分間の企画ニュースしか担当したことはありませんでした。今回の60分の番組では、自分が担当した以外のニュースのポイントや、番組制作の手順など、分からないことばかりで、プロデューサーである一戸局長を始め、編集担当のカメラマンや報道部の全員に協力していただき、反省点も多いのですが、何とか番組を放送することができました。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

谷口委員長

ありがとうございました。では各委員からご意見を伺いたいと思います。第一に、中川委員からお願いいたします。

中川委員

2年目で番組を作られたということですが、私自身が新聞記者になって2年目の年末に何をしたかな、と今振り返ってみましたら、当時は1年間の新聞のスクラップを引っ張り出して、「この1年」という企画の材料を選ぶ、というそこまでの仕事でした。

それをひとつの番組として構成し、作品としてきちんと作られたというのは、ご本人も努力されたでしょうし、実力もあるのだな、と率直に驚きました。

番組自体に関してですが、旅館の女性だと思うのですが、番組冒頭で「本当にいろんなことがありました」という発言があったと思います。これがまさに岩手県の一年を象徴した一言だと私も思いましたし、うまい導入だと思いました。

敢えてそのうえで2点だけ言わしていただければ、地震とか事件の大きなニュースの間に、3ヵ月ごとにニュースをまとめて入れる構成になっていたようですが、時系列がごっちゃになった部分があり、正直見づらかったな、と思いました。

もうひとつですが、県民の方のコメントは良かったのですが、報道局の方のコメントがちょっと月並みで、もっと報道局の方の「想い」のようなものを話されたほうが、視聴者も報道の現場の様子を知ることができて、興味深く見ることもできたのではないかと思います。

来年も期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

谷口委員長

ありがとうございました。それでは、次に菅原委員からお願いいたします。

菅原委員

一関市が合併したせいか、この頃やたらと一関市のお話が多いですね。全国版のニュースに、一関市のニュースが頻繁に出るようになって、それがいいのか悪いのか分からないのですが・・・

それはさておき、今回の番組を通して、いかに自分が忘れっぽいのか、ということを知られました。いろいろなことがありましたよね。ですから、番組の制作上の問題とか言うことよりも、いろいろなことがあったということを再確認した、ということが一番面白かったです。

地震が一番大きなニュースだったでしょうか、仮橋が架かってから地震の現場に行ってみたのですが、道路が崩落したりして予想以上の被害の様子でした。一関の街の方はそうでもなかったのですが、ちょっと巖美溪の方へ向かうと凄いです。

殺人事件もありましたし、昨年はずいぶんいろいろなことがあったな、ということ、番組を見て復習したような感じでした。

番組の制作に関することは、他の委員の方にお任せして、私の感想としては、いろいろなことがあったな、と思いましたし、面白かったですよ。

谷口委員長

ありがとうございました。続きまして、八木橋委員からお願いいたします。

八木橋委員

全体として「振り返ってみる」というのは面白かったと思います。1月から3月、4月から6月、というような番組の区切り方も、分かりやすく面白かったと思います。ただ、そのように区切ったことによって、ニュースに関連する問題の項目が、ちょっとフラッシュバックして戻るところがあって、中川委員同様、分かりにくかった、という問題がありました。

2点目は「アナウンサーの体当たりシリーズ」に関してですが、1点目の問題同様、この項目をまとめてやると、それぞれの項目の季節がはっきりしないので、せっかくですから、季節に合わせて構成していただければ、視聴者もそこで一息つけるような気がしました。

中川委員の感想とはちょっと違って、私は報道局の担当者のコメントが非常に良かったと

思います。むしろ少ないぐらいに感じました。この番組で一番印象深かったのは、一戸局長が番組で話していた、「地震のときには、とにかく第一報を出す。」というコメントでした。こういう言葉を私は聞きたかったのです。こういった地震のときは「第一報」を聞いて視聴者は安心するのだと思いますし、そういった慰安効果が大事だと思います。テレビやラジオが止まったら、それこそ大事件です。回復しがたい損害を受けているというのが分かるからです。災害による被害の状況をテレビやラジオで知ることによって、視聴者は安心できるので「とにかく第一報を出す」というのは非常に大事だと思います。

どのような内容の「第一報」を出したのか？ということは、番組では分からなかったのですが、中川委員のようなプロからすると、言葉が足らなかったのかもしれませんが、1年の総集編ですからこういう気持ちでニュースを作りました、こんなことが裏であったんだ、というようなことが分かるのもっと良かったと思います。さほど重要と思われぬニュースは多少割愛してでも、担当者のコメントはもっと増やして欲しいと思います。

谷口委員長

ありがとうございました。続いて、斎藤雅博委員に、お願いいたします。

斎藤雅博委員

ニュースの総集編ということで、事件・事故の1年を網羅した内容になっており、2008年という年、私もいろいろなことを思い出しながら振り返ることができました。そういう意味で非常に良かったと思います。

恐らく昨年の主なニュースは殆ど取り上げられていたと思います。番組でも最大のニュースは地震ということでしたが、私自身も全く同感ですし、県民の皆さんもそういう思いで見ているのではないかと思います。

私は当日、県北方面に出張してまして、大きな地震だということは感覚的に分かってはいたのですが、昼食時にテレビのニュースの映像を見て非常に驚くとともに、祭時大橋の崩壊や大きな土砂崩れの映像を見ることによって、地震の大きさを実感することができました。テレビの映像の良いところは、一瞬で地震の大きさや被害の様子を伝えられることで、それがテレビニュースの強みだと思います。そういう意味で番組の映像のセレクションも非常に良かったと思います。また地震によるバスの転落の映像についても、見て分かるという点で同じようなことが言えると思います

被災者の復旧の様子も取り上げられていて、それは多面的な捉え方という点では良かったとは思いますが、一方経済的な面で風評被害が大きかったのも、これはもう少し大きく取り上げて良かったのではないかと思います。

番組の流れについてですが、中川委員が指摘していたように、曖昧になった部分があり、そこはどれもよく分かりませんでした。

それから、八木橋委員もお話されていましたが、主要なニュースについて報道局の皆さんがそれぞれコメントをしたというのは、非常に良かったと思います。これは、昨年にはなかった新たな取り組みということで、非常に感心して見ておりました。報道の裏側というか、報道する側の「想い」をああいう形で出してくれたというのは、非常に良かったと思います。

1年間を通して脳裏に焼きついた映像というのは誰しもあると思うのですが、それを思い起こさせてくれたという意味で、非常に良い番組だったと思います。

谷口委員長

どうもありがとうございました。次に、中原委員にお願いいたします。

中原委員

私も見させていただいて、大変な年だったなあと思いました。全国ニュースが多かったということで、そういう面では岩手も全国区になったなあと思いました。

テレビというのは動く映像が武器ですよ。そういった面では総集編でしょうから、その時々々の映像を見て、さすが頑張っているなあ、良い部分を引き出しているなあ、という印象を持ちました。

特に空撮についてですが、普段の取材のなかで機動的に動くという部分で、力を入れて欲しいと思います。お金のかかる話なのでしょうが、空撮の映像はやはりテレビの武器だと思うので、平成21年度に向けてさらに取り組んで欲しいと思います。

災害にあった人、事件にあった人などの県民の声を番組の節々で随所に取り入れた、というところは良かったと思います。自分が知っている人間が画面に出ていたり、自分が行ったところの映像が出ていると、随分インパクトがあると思います。その辺を番組では良く引き出していると思いました。

中川委員同様、私も1年間を3ヵ月毎に括ってつないでいくという方法は無理があると思います。1年を振り返り、ずるずると時系列的にやるというのは、ある意味楽なのかもしれ

ませんが、総集編なので、県政とか事件・事故とか、テーマごとに区切ったほうが視聴者も見やすく、もっと印象が強かったと思います。時間に制限があって、なかなか問題を絞りきれないという面はあるとは思いますが、そこが勝負のしどころだと思います。例えば、斎藤委員も話されていた地震の風評被害を受けた県内の経済の問題などは、残る半年において、県民が非常に危惧していた印象深いことなので、ポイント毎に区切って紹介しても良かったと思います。

今回は時系列での構成だったので、それはそれでイイのですが、ニュースのポイントごとにめんこいテレビ報道部としてのコメントが欲しかったですね。ニュースで報道した内容に対して、どこに課題が残されていたか？とか、どこに問題があったか？とか、今後どんなことに気をつければ良いか？とか、担当者としての課題提起・問題提起をして欲しいなと思いました。

もうひとつ、ワンジル君の話題は、スポーツの区切りではなかったですね。あのような明るいスポーツのニュースは、スポーツの区切りの中で扱って欲しかった。岩手のマラソンはビリの方ですから、ワンジル君から岩手のマラソンを強化するコメントなどを引出せれば、県民やマラソンの関係者には参考になったかもしれないですね。

いずれ1年間のまとめとしては、大変な1年間だったと印象づけることが出来た番組だということで、ご苦労だったなあと思います。一戸局長が明るいニュースが少ないと仰っていましたが、私もそう思いました。無理やりでも明るい話題を作りあげて、来年に期待を持たせるような工夫もして欲しかったなあと思います。

谷口委員長

どうもありがとうございました。中原委員がこれまで総括されますと、私が出る幕は無いので、次は新しい違った視点で、女性の村上委員からお願いいたします。

村上委員

川村ディレクター、はじめての制作ということでお疲れ様でした。取材して報道するという、今までのお仕事とは違ったご苦労をされたと思います。ニュースは長くても5分ですよ、それらをまとめて編集をして60分の番組を作るということは、大変なことだったろうと思います。1ヵ月に15本以上も全国ニュースがあるという忙しい年で、その中からどれをどういうふうにピックアップしてまとめるか？ということで、非常にご苦労されたのでは

ないかと思えます。60分の番組を見て、この岩手の1年はなんと災害・事件・事故が多い年だったのだろうと、あらためて振り返るいい機会になったと思えます。

ニュースはその時の速報性ですとか、正確性が一番大事だと思えますが、総集編で見て初めて分かることができました。それぞれのニュースがどういうウエイトで、どういう意味を持っていたのかということ、あらためて気づかせてもらいました。そのなかでも二つの大きな地震のところで、一戸局長のコメントで「第一報が大切」というのがありましたが、なるほどそれが報道なんだな、と思いました。同時に「報道フロアに全然電話が鳴らなかった。」と仰ってましたが、「電話が鳴らないということが事の重大性を物語っている」というのも、なるほど、と思いました。その辺が意表を突かれたというか、非常に臨場感のあるお話でした。そういったお話から、ただ事ではない、という報道フロアの空気が感じられて、とても良かったと思えます。

たくさんの現場に取材に行かれていますと思えますが、非常に凄惨な事件も多かったと思えます。岩手は安全・安心な土地だと思って暮らしていましたが、岩手でも起こる時は起きるのだな、と感じました。

そのなかでも平泉の世界遺産登録は、去年の一番の関心事だったと思えます。めんこいテレビはグループを挙げて応援して来ましたが、最終的には残念な結果に終わりました。そのようななか、カナダのケベックにまで取材に行かれたということで、本当に力が入っているな、と感じました。

一戸局長は、今年はずっと明るいニュースを、と仰っていましたが、日々の暮らしのなかには、いろいろ楽しいことや明るいことですとか、一生懸命ものを作っている人とかたくさんいらっしゃるの、そのへんもぜひ紹介して欲しいと思えます。1時間あっという間に見ることができました。ありがとうございます。

谷口委員長

ありがとうございました。続きまして、東海林委員からお願いいたします。

東海林委員

この番組が放送された昨年の30日は、ちょうど子供を連れて実家に戻っておりまして、テレビの前で、みんなでこの番組を見たのですが、やはり地震のニュースには家族それぞれの思いがありました。地震の日は小学生の子供の参観日でした。まだ朝の早い時間、先生が

教室に来る前に地震が起きました。親がおろおろするなか、子供たちは何も言わず普通の避難訓練どおりに黙って机の下に潜りました。そのような場面に立ち会えて、普段からこういうふうに訓練しているんだ、ということが分かって、いい意味での参観日になったことを思い出しました。暮れにこの番組を見るまでは、家族と地震について話しあうというようなことは無かったのですが、家族でテレビを見ることによって、振り返って地震の時はこうだった、ああだったという会話が出来たり、宝くじ殺人事件のニュースを見て、あのときは、盛岡駅が大勢の報道陣で大変だったよ、などという会話をできるいい機会となりました。

新聞でも「今年の10大ニュース」などという1年を振り返る特集がありますが、あちらはどちらかというと一人で読むものという感じで、その点でテレビの総集編は、家族みんなで1年を振り返りながら会話ができますので、ぜひ今年の12月もいい意味で1年間を振り返られる番組をつくっていただけたら、と思います。去年は凄惨な事件が多かったこともありますので、例えば鮭の稚魚を放流したとか、珍しい花が咲いたとか、ほっとする季節の話題なども織り込みながら制作していただければ、と思います。大人だけでなく、家族みんなで1年を振り返られる、例えば食卓での話題の提供をしていただけるような1年間のスペシャル番組にしていいただければいいな、と思います。

谷口委員長

どうもありがとうございました。

川村ディレクターは、県警担当で事件・事故を取材されているということで、暗いニュースが多くなってしまったのでしょうか？

東海林委員のご意見には私も同感です。暗い話題ばかりではなく、我々の目につかない、鮭の稚魚の放流のような小さな話題でも、取り上げていただければ、と思います。

私は鳥取出身ですが、岩手のリンゴは本当に素晴らしいと思います。昨年からお歳暮で贈っていますが、岩手にこんな素晴らしいリンゴがあったのか？と喜ばれています。野性味を帯びたリンゴもありますし、新しい品種のリンゴもあります。そういったものをテレビで紹介していただけると、ありがたいですね。

明るいニュースも探せばあるので、暗いところばかりではなく、岩手のほんのりした良さをを出していただければと思います。

それでは、久しぶりの久慈委員からお願いいたします。

久慈委員

皆様のご意見を聞いて、私もその通りだな、と思いました。ただ、私はどちらかという
と時系列で流れる方がいいな、とは思いました。例えば景気が悪くなってきたのは、このあ
たりだったのかな、とか分かるので、その方が見やすいと思いました。

皆さん、暗いニュースばかりだったという意見が出ていましたが、やはり私も暗いニュー
スばかりだったと思いました。明るいニュースばかり取り上げるとは言いませんけど、年末
に気分は滅入りたくはないですよ、美味しくお酒を飲みたいです。あれだと気分は「手酌
酒・・・」という雰囲気なってくるので、せっかくですから「ハッピーニューイヤー!!」と
いう感じの映像も散りばめていただければよかったです。

でも、それだけ暗いニュースが多い世の中なのだ、ということ的印象づけられた2008
年だったのかな、と思っております。

私が凄くイイな、と思ったのは、最後に子供とか、おばちゃんが出ていたインタビューで
した。もっとあっても良かったと思います。一番最初に、野球少年団に入りました、という
女の子が出ていましたが、その子は私の先輩の娘です。私の会社の前で撮ったものです。地
域のああいう人たちがどんどん出てきて「大変だったけど来年は頑張ろうよ。」みたいな映像
が最後にたくさんあると良いと思います。事実だから仕様が無いのですが、最初は暗いニュー
スばかりでも、最後は明るくいきましょうよ、にならないと、その年がかわいそうかな、
と思っていますので、街角インタビューのような映像はどんどん入れてください。それから
幼稚園にもぜひ行って下さい。幼稚園児は前向きです、夢しか語りません。人生に疲れたな
んて決して言いませんから、そんな彼らを取材してもいいのでは、と思います。

谷口委員長

ありがとうございました。

私の大学にも近くの幼稚園の園児が来て、木の苗木を植えていきました。10年・15年
後に、私の大学に入れとは敢えて言いませんでしたが、いい経験でした。そういった映像も
入れて欲しかったですね。

地震についても、あれだけ大きな地震に2回も襲われたにも関わらず、他の大きな地震に
比べて、被害が少なかったことと、非常に死亡者が少なかったことは、岩手県は誇っている
ことだと思います。また被災者に対する県の対応も良かったし、困っている人が少なかった。
そういった良さを、もっと番組で出していければよかったです、と思います。

さて、次は吉田委員にお願い致します。

吉田委員

全体的に見ますと、大変分かりやすく、見やすく構成されていたと思います。ちょっと気になったところは、中間のあたりにアナウンサーの奮闘のコーナーがありましたが、むしろあいったコーナーは前でやるか、あるいは後ろでやるか、その方が番組としては引き締まったのではないかと思いました。

私は、番組審議委員として、他の審議委員の方と違った視点で番組を見たいなと、思っていました。

まずは、リニューアルされたスタジオが良いですね。都会的な雰囲気になりました。とても素晴らしい、と思いました。

先ほどの説明のなかに、去年は全国ニュースに取り上げられたことが多かった、ということがありました。であればあるほど、岩手の言葉の良さをとりあげて欲しかった、と思います。

地震のコーナーで紹介された、県民の皆さんの声のなかで一番印象的だったのは、ある方が「おっかねがった。」と方言で言っておられました。ああいうのがテレビの良さだと思います。県民の声をたくさん拾いあげて流していただく、そういうことがテレビの一番大事なことではないかな、と思いました。

それから強いて言えば、皆様も仰っておられましたが、全体的に暗い話ばかりが、取り上げられていました。特に経済となると、もう暗い話題しかないわけです。暗い話題は、事実上事実なのですが、経済をひとつとって見ても、岩手として絶対に他の県に負けていないことが結構あるわけです。そうした経済の力の良さとか、岩手の持っている強みとか、これらは間違いなく視聴者にアピールできますし、今こそチャンスなのですね。そういうことがちょっと足りなかったかな、とつくづく思います。その点では残念でした。

番組を見終わった直後の印象として「何か足りないな」と感じました。やはり1年間のニュースですから、そのニュースに対するメッセージとか、1年間のまとめ、総括、そういうものが必要なのではなかったか？と思ったわけです。それができると、番組の評価もぐっと上がるのではないかと、そういう印象を受けました。

谷口委員長

どうも、ありがとうございました。たしかに1年間のまとめがあったほうが良かったかもしれないですね。ある程度努力はされたとは思いますが、私も、もう少しクリアなメッセージを出されたほうが良かったかな、と思いました。

次に椎井副委員長からお願いいたします。

椎井副委員長

いつも一番最後のほうなので、皆さんがお話になったことに尽きるのですが、私も大変楽しく昨年を振り返らせていただきました。

番組の狙いからすれば、1年間を1時間の番組に収めるわけですから、こういった企画も、あぁいった企画も、というのは多少無理があるのかな、とは思いました。

本来のこの番組の狙いは何かというと、1年間のニュースを映像で振り返る、というのが第一義的な狙い目なのではないかと思います。そういった意味では、この種の番組はNHKをはじめ各局で同じようなものを行っているわけです。そのようななかで、この番組は、ローカルの民放さんらしく、地域の問題に絞ってそれを掘り下げてみたり、番組のなかにいろいろな楽しみを与えながらニュースを見せる、ということで、いろいろな工夫をされたところがあるな、というふうに思いました。そこは評価させていただきたいと思います。

先ほどから、皆さんから暗いニュースという話が出ていますが、川村ディレクターが警察担当の記者だからというお話しも谷口委員長からありました。仮に、別な方で社会面を担当している記者だったらどのような構成になったのかな？と私は思いました。

もう1点ですが、この番組を見て、私も自分の知らないニュースが相当ありました。そういう意味で、新聞に出ているようなニュースばかりではなく、その他のニュースも取り上げて欲しいと思います。事件・事故のニュースというのは、ともすると受身になりがちだと思います。そういうことではなく、記者の方・アナウンサーの方が日頃の取材活動の中で、アンテナを高くして、自ら発掘したニュースの題材、つまり特ダネですよ、そういった特ダネを発掘する努力も必要なのではないかな、と思いました。

最後に全般を通じてですが、私自身は、1年間の岩手の動きをしっかりと勉強させていただきました。ありがとうございました。

谷口委員長

どうもありがとうございました。私としてそれほど付け加えることはないのですが、私自

身もフォローしてきた問題の大部分を、このニュース番組でも振り返っていただいたということで、良かったと思います。

私が非常に関心を持ったニュースは、私が一番好きな川井村で殺人事件が起こり、私の一番好きな田野畑村の鵜の巣断崖で、犯人の足取りが消えたということです。たまたま鵜の巣断崖に行っておりまして、下を見たら警察が捜査で来ていましたものですから、印象に残っています。番組では、その後について続報が出ていなかったのですが、犯人は鵜の巣断崖で自殺を装い、逃亡していてまだ見つかっていないということですよ。不思議な事件です。

地震の時は、自宅が停電したのですが、電話も使えず、携帯電話もつながらない状態で、情報が取れずに非常に不安でした。地震が起きた時に情報をどう出すか？地震対策として、報道機関の役割を今後検討していただければありがたいと思います。

最後に平泉の世界遺産登録のニュースですが、確かによく報道されていたと思います。近藤誠一大使のカバンの裏に平泉の資料がいつも入っていることなど、良く取材をしているな、と思いました。今度、近藤大使に会ったら、褒めてやろうと思います。

平泉は残念な結果に終わったわけですが、なぜ浄土思想が説明できなかったのか？これから大事なことは、いかに浄土思想や平泉の文化を、ユネスコやイコモスにどう伝えるか？だと思います。岩手県の文化だからと、岩手県だけでやってもダメなので、もっと全国的な発信をして、もっと日本全体が盛り上がっていかねばならないと思います。「残念だった、残念だった」と言うだけではなく、残念だったということも必要ですが、なぜどこが足りなかったか？という反省点が、番組に入っていれば良かったと思います。

でも、川村ディレクターをはじめ、皆さんでよくまとめられたと思います。委員の皆さんの言う番組の暗さばかりではなく、岩手の良さである「粘り強さ」も番組の最後で感じられ、伝わってきました。その部分をもっと強く表現できればもっと良かったと思います。

では、欠席委員からのレポートを事務局からお願いいたします。

事務局

斉藤純委員、役重委員から届いております。

斎藤純委員レポート

2008年の岩手のニュースを振り返るこの番組は、オンエア時にも拝見しました。オンエア時は「そうそう、あんなこともあった」とか「殺人事件が異様に多い年だったな」など

の感想を持ちました。

今回は二度目だったため、「掘り下げ方が足りないな」と感じましたが、それはこの番組の趣旨から外れるので、今後の報道活動に期待したいと思います。

私は昨年秋に、秋田テレビの番組ロケで秋田側から須川温泉に行きました。まだ岩手側の道が通じていなかったころです。

道路のあちこちが陥没し、ほとんどのところで片側交通でした。そのさまをみて、改めてあの地震の大きさを思い知らされました。

ところで、地震で電話が通じなくなったとき、威力を発揮したのがインターネットと携帯電話のメールでした。安否の確認、被害箇所などの連絡に大いに役立ったのです。

地震に関連して、風評被害が甚大だったことをもう少し取り上げてもよかったのでは。

役重委員レポート

「意外に忘れてるものですねえ」というキャスターのコメントが終わりの方にありましたが、全くそのとおり、同じ感想でした。あまりに次から次へといろいろなことが起き、我々はいっとき騒ぎ、犯人捜し・悪者探しに熱中し、そしてあっという間に忘れていく。こんなことでいいのかと思う反面、こうした現象は実はニュースだけじゃない、現代日本人の消費生活のすべてにわたる共通した現象ではないかと改めて感じさせられました。

あらゆる商品、サービスの賞味期限がどんどん短くなっている。もっとすごいもの、もっと強い刺激、もっと高いサービス水準を求め、私たちの要求はどんどんエスカレートする。ベストセラー本なども、大仰な売り文句、書店評などで読者層の視覚に訴え、一通り売った後は関連本、関連グッズ化、映画化などお決まりのコースでコストパフォーマンスを上げる、そして1年後には忘れ去られるというパターン。何世代にもわたって読み継がれる本当に良質な書物などはもう世に出ることはないのかと時々不安になります。

岩手内陸地震で今も避難所生活を送る女性がインタビューで「まだ帰れない人たちが居ることを忘れないで」と訴えていましたが、あれはこうした「情報の使い捨て時代」への小さなプロテスタントだったと思います。惜しかったのは、あの映像の時、明確に「何月何日」とリアルタイムのインタビューであることを表してほしかった。そうすれば、ああ半年経った今もこうなのかという実感が視聴者にもっと強く迫ったことと思います。

1時間、硬軟取り混ぜながらテンポ良く見せましたが、一つだけ物足りなかったのは、関東自動車の人員削減のニュースの取り扱いでした。編集した時点ではまだ1企業の操業縮小

を扱う感覚だったかもしれませんが、これを放映した年末の時点では、世の中はアメリカ発の世界同時不況が自動車産業の裾野に多くを依存してきた岩手の産業を直撃し、雇用切り捨て、生活不安といったあまりに大きな波に人々が翻弄されているまただ中ではなかったでしょうか。1年を振り返る時、そうした視聴者にとっての『今』の視点もふまえ、どうしてこうなったのか、この発端、予兆はいつどこにあったのか、などの切り口もちりばめられれば、より引きつけられる構成になったのではと思います。

谷口委員長

ありがとうございました。それでは、本日の番組審議会を終了させていただきたいと思えます。

事務局

今回の審議会の模様は、2月14日(土)朝4時30分から「めんこいテレビ批評」として放送いたします。次回は3月4日(水)を予定しております。本日はありがとうございました。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

8．審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

*平成21年2月5日(木) 産経新聞 東北版

* 平成21年2月14日(土) 午前4時30分から4時45分まで「めんこいテレビ批評」内で放送

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9．その他の参考事項

特になし